

資料3 5つの基本目標に基づく施策の事業評価シート(審議案)

平成27年度第1回会議/平成27年7月2日(木) 原案承認

| No. | 関連施策・取り組み事業 | 対象 | | | | | | | | | | 関連施策・取り組み事業の内容 | 主担当課 (機関) | 関係課 (機関) | 平成27年度 〈事業実績〉 | 〈進捗状況〉 担当課評価 | 平成28年度 〈取組課題〉 | 備考 |
|---|------------------|--------|--------|--------|---------|-------------|------------|---------------|---------|---------|-------------|----------------|---|-------------------------------|---|-----------------|---|----------------------|
| | | 子ども自身 | | 親(保護者) | 祖父母等の親族 | 教育・保育事業者、学校 | 市(県・国)行政機関 | 地域の子育て支援者、企業等 | A…よくできた | B…できた | C…あまりできなかった | | | | | D…できなかった | | |
| 0~2歳 | 3~5歳 | 小学校低学年 | 小学校高学年 | | | | | | 中学生 | 高校生・未成年 | | | | | | | | |
| 基本目標1 人格形成の基礎が培われ、生きる力を育む「教育・保育」の環境づくり ~「幼児教育・保育、学童期教育・保育」~ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 脳科学理論に基づく16か年教育の推進 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 取り組むべき課題 ①小中連携教育の推進から、小中一貫教育への移行 ②自主性・自立性の育成 ③家庭へのさらなる啓発と家庭学習の習慣化 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 記入例 | ⑦地域子育て支援拠点事業 | ○ | ○ | | | | | | | | | | 家庭や地域における子育て機能の支援・充実を図るため、児童館に常設のつどいの広場を設け、市内保育所の一つを指定施設として、子育て指導者(保育士等)及び担当者が、子育て支援の各種事業を実施します。 | 子育て支援課 児童館チャイコム (来住保育所) | (SAMPLE) ・児童館“チャイコム”つどいの広場 年間90日 延べ利用者数3,888人 ・地域子育て支援センター(実施場所:来住保育所) 年間300日 延べ利用者数1,185人 etc | (SAMPLE) B | (SAMPLE) 事業実施が子育て家庭に認知されていない面があるため、市広報誌やホームページ等を活用して広く周知を図り、利用者数の増加に取り組む。etc | 子ども・子育て会議での寸評・意見・提言等 |
| 1 | 脳先端科学(川島理論)による教育 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | 脳の中の指令塔といわれる前頭前野を鍛えることが、子どもを健全に育てることにつながります。心を育み、情緒の安定や学力向上をめざす特色のある教育を推進します。健やかな体づくりをめざし、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを重要ポイントとして推進します。 | 学校教育課 体育保健課 | | | | |
| 2 | 就学前教育の充実(幼稚園) | ○ | ○ | | | | | | | | | | たえず変化していく社会の中で、子どもが自らの可能性をのばし、物事を主体的に考え、判断していくことができるよう、保育所や幼稚園、学校において子どもの個性を十分に引き出す教育(保育)の充実を図ります。 | 学校教育課 | | ... | | |
| 3 | 就学前教育の充実(保育所) | ○ | ○ | | | | | | | | | | たえず変化していく社会の中で、子どもが自らの可能性をのばし、物事を主体的に考え、判断していくことができるよう、保育所や幼稚園、学校において子どもの個性を十分に引き出す教育(保育)の充実を図ります。 | 子育て支援課 | | ... | | |
| 4 | 学校体育推進事業 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ①小学生陸上競技大会、②中学校総合体育大会、③中学校新人戦大会を実施します。また、おの体力検定を年2回実施することで体力の維持・増進を図ります。 | 体育保健課 学校教育課 | | ... | | |